

## 東地中海の海事遺跡と海事資料調査

著者	庄司 邦昭
雑誌名	東京商船大学研究報告. 自然科学
巻	53
ページ	149-168
発行年	2002
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1342/00000565/">http://id.nii.ac.jp/1342/00000565/</a>

## 東地中海の海事遺跡と海事資料調査

庄 司 邦 昭

### Research on Maritime Archaeological Site in East Mediterranean Sea

Shoji Kuniaki

#### Abstract

In this paper the result of research on maritime archaeological site in east Mediterranean Sea was shown. Author visited 7 countries, that is Hellenic Republic, Republic of Cyprus, Republic of Lebanon, Arab Republic of Egypt, Republic of Tunisia, Republic of Malta and Republic of Italy, by the research project from 28th August to 18th September in 2002.

From this research the author confirm several ancient maritime data. One is the existance and priservation of graffiti of ship which was scratched onto ortostats at the ruined temple of Malta. This ancient stone age was older than Pilamid age in Egypt. Many cites also constructed near the harbour and ship was important to the prosperity of the city. Those details should be discussed hereafter.

#### はじめに

2002年8月28日から9月18日にかけて、東地中海の海事遺跡を調査した。調査した国および場所は以下のとおりである。

ギリシア：アテネ(Athens)、ピレウス(Piraeus)、ミロス島(Milos)、ミコノス島(Mikonos)、デロス島(Delos)、ロードスタウン(Rhodes, ロードス島)、リンドス(Lindos, ロードス島)、マタラ (Matala, クレタ島)、イラクレオン(Iraklion, クレタ島)

キプロス共和国：ラルナカ(Larnaca)、パフォス(Pafos)

レバノン：ホルシュアルツエルラブ(Horsh Arz el-Rab)、ビブロス(Buibros)

エジプト：カイロ(Cairo)、アレキサンドリア(Alexandria)

チュニジア：チュニス(Tunis)、カルタゴ(Carthago)、ケルクワン(Kerkouane)

マルタ：バレッタ(Valletta)、タルシエン(Tarxien)、ハガールキム(Hagar Qim)、ムナイドラ(Mnajdra)、ジャイガンティーヤ(Ggantija)、ビットリオザ(Vittoriosa)、カルカーラ(Kalkara)

イタリア：シラクーサ(Siracusa)、アグリジェント(Agrigento)、セリヌンテ(Selinunte)、マルサーラ(Marsala)、トラーパーニ(Trapani)、アマルフィ(Amalfi)、クーマ(Cuma)、ベネツィア(Venezia)、ジェノア(Genoa)、ローマ(Roma)

本報告ではこれらのなかから訪問した日程順に海事関係資料を示す。

## 1. ピレウス（ギリシア）

### （1）ピレウス考古学博物館

1930年にピレウス港で発見された古代の難破船の船内にあった遺物がコレクションの主要なものの一つになっている。このなかに紀元前4世紀の三段櫂船と予想される古代軍艦の衝角や石の錨がある。

ピレウス考古学博物館

Archaeological Museum

住 所：31 Charilaou

電 話：4521598

開 館：1981年

開館時間：8時30分～15時

休 館 日：月曜日

料 金：大人2ユーロ

写真撮影：禁止

訪 問：8月29日（木曜日）

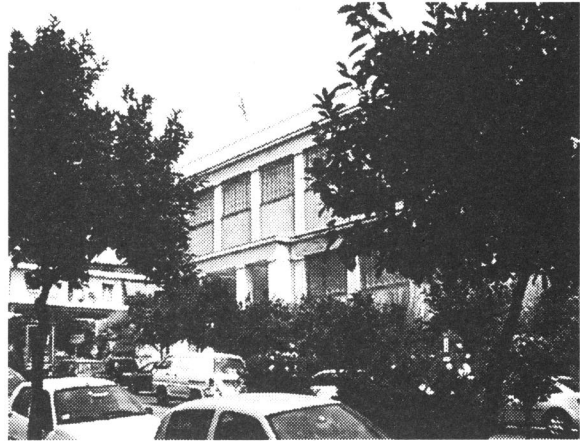


写真1 ピレウス考古学博物館

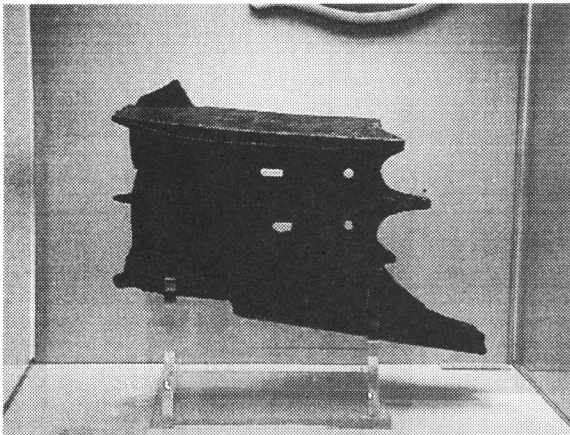


写真2 三段櫂船の衝角

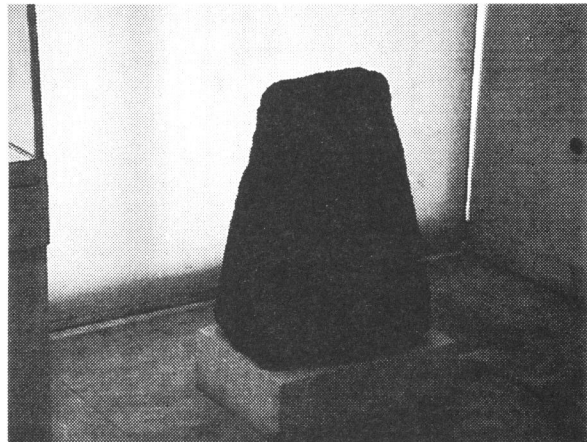


写真3 古代錨

### （2）ピレウス海事博物館

8月中は休館で、外部のみ見学した。

住 所：Akiti Themistokleous

電 話：4516264

開館時間：9時～14時（土曜日は13時30分まで）

休 館 日：日曜日、月曜日、8月

料 金：1.50ユーロ

訪 問：8月29日（木曜日）



写真4 ピレウス海事博物館

### (3) ゼア港の船架跡

大型船の停泊するピレウス港の南に円形を描く古代からの良港、ゼア港がある。港の入口は幅 100m と狭く、外海からの波の影響を受けにくい良港として古代にはガレー船も停泊する港だった。海から軍艦を引き揚げる船架が個人の居住する建物の半地下に保存されている。

#### ゼア港の船架跡

訪 問：8月29日（木曜日）



写真5 ゼア港古代ガレー船船架跡（住居地下）



写真6 ゼア港古代ガレー船船架跡（屋外）

### (4) サラミスの海戦地

ピレウスから西方にあるペラマという町は対岸のサラミス島へのフェリーの発着で賑わっている。この海域でサラミスの海戦が行なわれている。

#### サラミスの海戦場所

住 所：ペラマ沖

訪 問：8月29日（木曜日）



写真7 サラミスの海戦海域（ペラマ沖）

## 2. ミロス島（ギリシア）

ミロス島は黒曜石の産地として知られ、先史時代から交通の要衝として栄えた。第一次大戦時にはフランスの海上基地にもなった。島の中心はミロスタウンでプラカとも呼ばれる。定期船が到着する港があるアマダスの北西約4kmのフランク族が築いたカストロの麓にある。プラカのやや南西に位置するクリマという古代都市跡から1820



年に「ミロのビーナス」が発見された。プラカの町からカタコンベという標識にそって海岸に向かって下り、途中で古代劇場への分かれ道の方へ行けば道端にその表示がある。プラカの考古学博物館には黒曜石で作られた鏃（やじり）などが展示されている。この島にしか産出しない黒曜石がギリシア本土のフランクティ遺跡のような紀元前11000年頃の石器時代遺跡から発見されたことにより、この時代にすでに海上輸送が行なわれ、海上交易のために船が存在したと考えられる。

#### ミロス島考古学博物館

英 名：Archaeological Museum of Melos

所 在 地：ミロス島プラカ

開館時間：8時30分～15時

休 館 日：月曜日

入 館 料：大人3ユーロ、学生2ユーロ

訪 問：8月30日（金曜日）

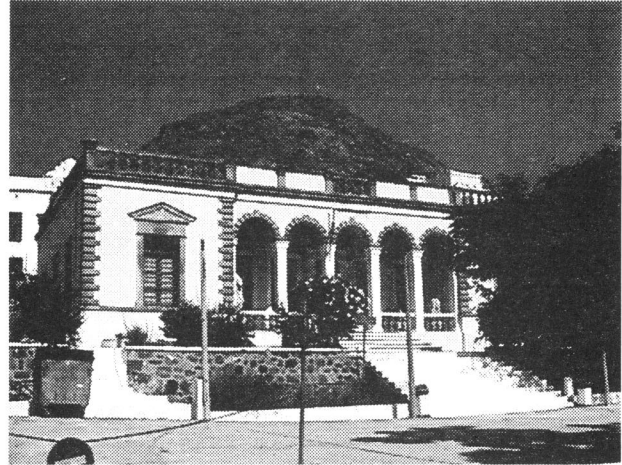


写真8 ミロス島考古学博物館

### 3. デロス島（ギリシア）

ミコノス島の西、約20kmに浮かぶデロス島は現在は無人の島だが、紀元前にはデロス同盟の中心として栄えた。ここに現在の船着場の南に古代の商業港、北に聖なる港が残されている。

聖なる港は紀元前6世紀頃に建設された。150mに及ぶ御影石造りの防波堤があったが、現在はその殆どが水没してしまっている。

#### デロス島古代遺跡

訪 問：8月31日（土曜日）



写真9 古代の商業港跡（デロス島）



写真10 古代の聖なる港（デロス島）

#### 4. ミコнос島（ギリシア）

ミコнос島にあるエーゲ海海事博物館では、古代から 19 世紀に至るまでの帆船の模型や地図、羅針盤、灯台で使用したレンズなど航海に関する資料を展示している。

ガイドブックには 14 時までとなっていたが、13 時に閉館していたため内部の見学はしていない。

エーゲ海海事博物館

Agean Maritime Museum

住 所：エナプロンディナメオン通り

電 話：22700

開館時間：8 時～13 時

休 館 日：月曜日

料 金：1.47 ユーロ

訪 問：8 月 31 日（土曜日）



写真 11 エーゲ海海事博物館

#### 5. ロードス島（ギリシア）

##### (1) リンドス

ロードス島のリンドスにあるアクロポリスの入口にガレー船のレリーフがある。このレリーフはルーブル博物館にある「サモトラケのニケ」と同作者であるとも言われている。

リンドスは同じロードス島にあるカミロスと並ぶ古代都市で標高 116m の岩山の上にアクロポリスがある。古代は神域として、中世には聖ヨハネ慈善騎士団の城砦となった。頂上まで 76 段の石段が続き、途中にはエクセドラという岩を削りぬいて造ったベンチがある。頂上に残るアテネの神殿跡は奇跡がおこる場所として崇められており、20 世紀初頭にデンマークの考古学者が発掘し、のちにイタリア人が修復した。遺跡からは海が見渡せて、素晴らしい眺望が広がる。

リンドスのアクロポリス

Acropolis of Lindos

電 話：02440-31528

開館時間：8 時 30 分～19 時

（冬季は 14 時 40 分まで）

料 金：大人 6.00 ユーロ

訪 問：9 月 1 日（日曜日）

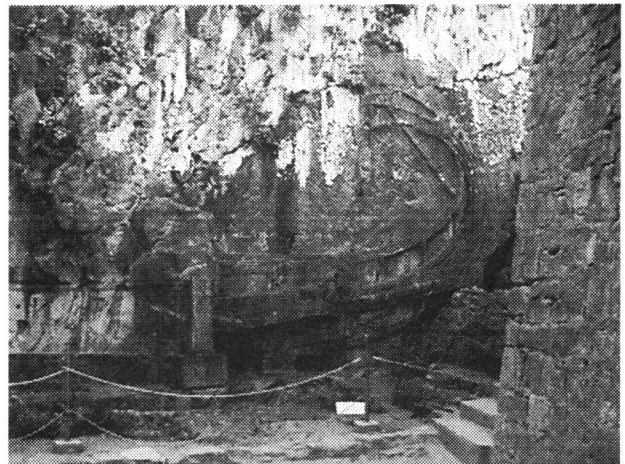


写真 12 リンドスのガレー船のレリーフ

## (2) ロードスタウン

旧港はマンドラキ港と呼ばれ、防波堤の突端には 1464 年に聖ヨハネ騎士団のザコスタ団長が建造したアギオスニコラオス要塞(Fortress of Agios Nikolaos)があり、騎士団が港に入る船を監視した。港の入口には牡鹿と雌鹿の像がのった 2 本の円柱がある。かつてはこれを跨ぐように世界七不思議の一つに数えられているヘリオスの巨像があったと伝えられている。

ロードスタウンのマンドラキ港

訪 問：8 月 31 日（土曜日）

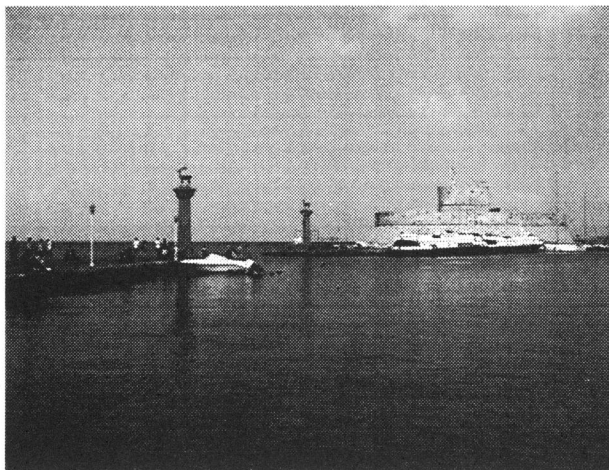


写真 13 ロードスタウンのマンドラキ港

## 6. クレタ島（ギリシア）

## (1) コモス海岸

マタラの北のコモス海岸で、ミノア時代の港湾都市が最近発掘された。ここはフェニキア交易の拠点だった。発掘現場は金網越しに見ることができるが、かなり大規模なものであった。隣接する海岸には当時の港を想像させる岸壁の岩や沖合いの防波堤跡のようなものが望見できた。

コモスビーチ古代遺跡

訪 問：9 月 2 日（月）



写真 14 コモス海岸

## (2) イラクリオン

考古学博物館はクレタ島から出土した遺物の多くを展示している。「フェストスの円盤」、「蛇の女神」、「牛頭のリュトン」、「アクロバットの像」、「パリジェンヌ」などが有名である。

考古学博物館（イラクリオン博物館）

Archaeological Museum

電話：228203

開館時間：8時～19時（月曜日は12時から、冬季は17時まで）

休館日：無休

料金：4.40 ユーロ

訪問：8月31日（土曜日）



写真15 考古学博物館(イラクリオン博物館)

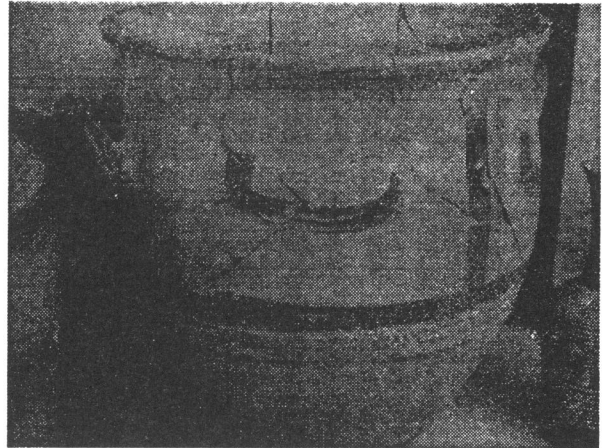


写真16 壺に描かれた船の絵

## 7. パフォス（キプロス）

パフォスは美しい自然と遺跡に恵まれた港町でユネスコの世界文化遺産にも選ばれている。港には昔の防波堤の跡が残されている。港に近くに考古学遺跡があり、その中には床に見事なモザイクが施されたディオニソスの館がある。

パフォス考古学遺跡

Pafos Archaeological Site

開館：8時～18時

料金：大人1.5ポンド（1ポンド=約200円）

訪問：9月3日（火）



写真17 パフォス港

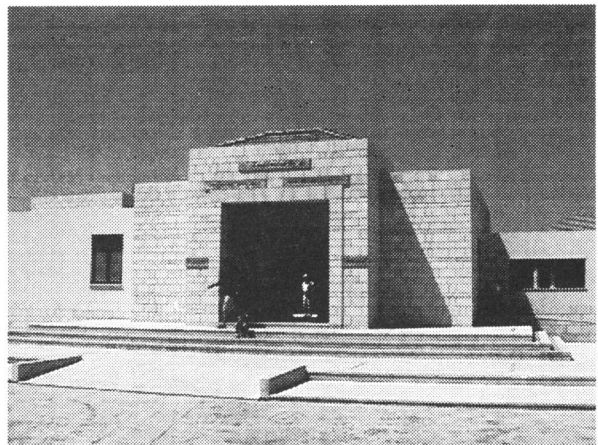


写真18 パフォス考古学遺跡入口

## 8. レバノン

### (1) ホルシュアルツエルラブ (神の杉の森)

レバノン杉はレバノンのごく一部に生息するだけになってしまった。ビブロスから内陸に約2時間 LE CEDER という標識をたよりに断崖絶壁の道を行くと、レバノンの最高峰の山麓で標高 2000m のところにレバノン杉の森がある。この森には樹齢 3000 年の杉が 2 本、樹齢 1000 年以上のものが 10 本自生する。

腐りにくく香り高いレバノン杉は、古くから建材や船材として多くの権力者に珍重された。また防腐剤、芳香剤などミイラ造りの必需品としてエジプトのファラオが購入するのに苦労したことをパピルスに記した文献も残されている。レバノン杉の伐採が始まったのは紀元前 3000 年頃で、初めはフェニキアおよびその周辺で利用されていたが、やがてエジプトへも輸出されていった。ビブロス、ティルス、シドンは積み出し港となり、その富によりフェニキア有数の都市に発展した。

中世には開墾のため伐採され、近代では蒸気機関車用に薪や鉄道の枕木として切り出された。こうした乱伐により、現在は国内全土で 1200 本が残っているだけである。

そのうちの 375 本がカディーシャ渓谷東部の神の杉の森で見られる。

レバノン杉の森

料 金：1500 レバノンポンド (レバノン杉の森を保護するための寄付として)

訪 問：9月4日 (水)



写真 19 レバノン杉の森

### (2) ビブロス

ビブロスには、新石器時代にあたる紀元前 5000 年代の住居跡を始め、フェニキア、ローマ、イスラムなど各時代の痕跡を重層的に残す建造物やその跡が残る。約 7000 年にわたり途切れることなく人々が暮らし続けている街は世界でも稀である。

ギリシア時代にはエジプトとギリシア間の交易港として栄えた。紙の原料となるパピルスをエジプトから仕入れ、ギリシアをはじめ地中海沿岸諸国に供給していたのもこの頃で、そのためにギリシア人はパピルスをビブロスと呼んだ。またビブロスの名はバイブル (聖書) の語源とされている。

街の北西部にある港は 12 世紀に十字軍が築いたものであるが、現在も遊覧船や漁船の船着場として利用されている。

ビブロス旧港

訪 問：9月4日 (水曜日)

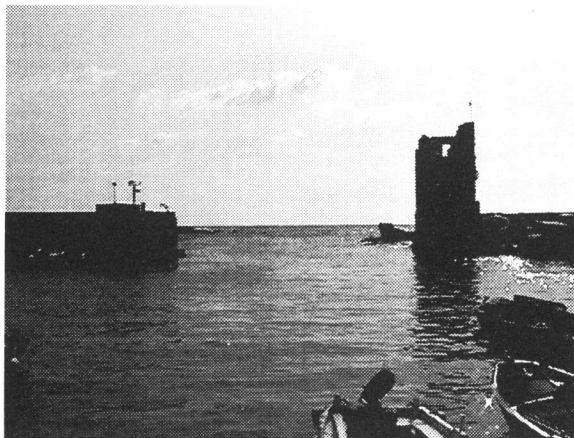


写真 20 ビブロスの港



## 9. エジプト

### (1) カイロ

カイロ郊外ギザのピラミッドの脇に発掘された太陽王の船を展示した博物館がある。大きさは 45 トン、全長 43.3m、幅 5.9m と示されている。

レバノン杉で造られたこのクフ王の船はピラミッド脇の坑から見つかった。建造から 4500 年以上を経ても朽ちることがなかった。

太陽王の船の博物館

Cheop's Boat Museum

(Mathaf Markab ish-Shams)

開 館：9 時~17 時（夏季）、9 時~16 時（冬季）

料 金：大人 20 ポンド、カメラ 10 ポンド、ビデオ 100 ポンド

訪 問：9 月 5 日（木）

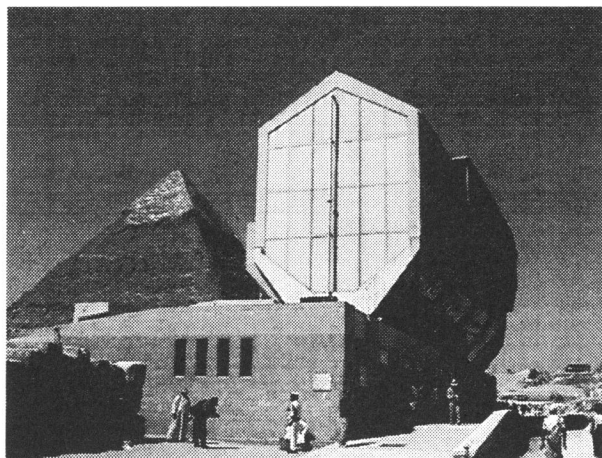


写真 21 太陽王の船の博物館

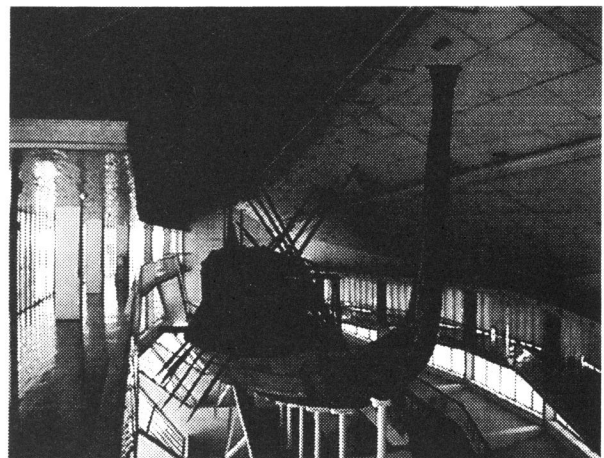


写真 22 太陽王の船

### (2) アレキサンドリア

アレキサンドリアは紀元前 4 世紀にアレキサンダー大王によって建設された。アレキサンダー大王の死後、プトレマイオス王朝時代に首都として地中海世界の文化の中心として全盛期を迎える。王朝最後の女王がクレオパトラであった。その後ローマに征服され、ビザンチン時代にはコンスタンティノープルやローマに次ぐキリスト教会の第三の主教座が置かれるなどしたが、7 世紀にはアラブの侵入をうける。

カーイトゥベイの要塞はもともと古代の七不思議のひとつといわれたファロスの灯台の跡に 15 世紀にマムルク王朝スルタンのアシュラフカーイトゥベイにより建てられた 3 層構造の堅固な要塞である。ファロスの灯台はアレキサンダー大王の案に基づくといわれ、プトレマイオス 2 世により紀元前 3 世紀に建設された。高さは 120m で 56km 先からも光が見えたというが、14 世紀の地震で崩壊した。現在、内部は海軍博物館になっている。

カーイトゥベーイの要塞

Qal'it Qaytbay

開館時間：9時～16時

休館日：無休

料 金：大人 6 エジプトポンド、学生 3 ポンド、  
カメラ 10 ポンド  
内部にある博物館：大人 12 ポンド、  
学生 6 ポンド

訪 問：9月5日（木）



写真 23 カーイトゥベーイの要塞（アレキサンドリア）

プトレマイオス 1 世が開いたといわれるアレキサンドリア図書館はヘレニズム時代に世界初かつ最大の図書館として名をはせた。幾何学の父として名高いユークリッドが通い、文献学者アリストルコスが館長を勤めた伝説の図書館である。ホメロスなどの古典や聖書のギリシア語への翻訳写本はここで行なわれた。この図書館を復活させようと 1990 年よりエジプト政府とユネスコが各国からの援助を募り、紆余曲折を経て、2002 年に開館した。直径 160m、高さ 35m の円筒を斜めに切った形はエジプトの太陽をイメージしている。

アレキサンドリア図書館

Maktabit il-iskandareeya

開 館：10 時 30 分～19 時 30 分

15 時 30 分～19 時 30 分（金・土）

休館日：無休

見学料金：10 ポンド

インターネット：[www.unesco.org/webworld/  
alexandria\\_new/index.html](http://www.unesco.org/webworld/alexandria_new/index.html)

訪 問：9月5日（木）

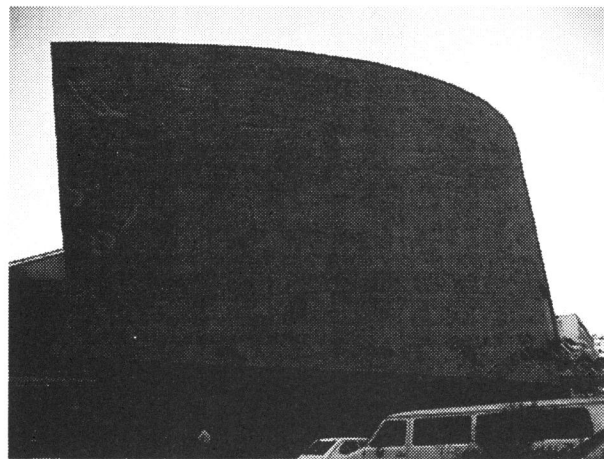


写真 24 アレキサンドリア図書館

## 10. チュニジア

### (1) カルタゴ (Carthago)

伝説によればフェニキアの王女エリッサにより町が建設されたのが紀元前 814 年、このとき現地人から牛皮（ビュルサ）1 枚で覆える範囲の土地しか譲れないといわれ、エリッサはその皮を切り裂いて細長い紐を作り土地を囲って領土を獲得した。この伝説にもとづいてこの一帯をビュルサの丘（Acropole de Byrsa）と呼んでいる。王女エリッサはウェルギリウスの『アエネイス』ではデイドという名で登場し、この名前のほうが音楽や文芸において有名である。

カルタゴは海上貿易や農業を中心に大いに栄えたが、イタリア半島を統一し地中海に乗り出したローマとの戦い



は避けられなかった。シチリアの権益をめぐって始まった第一次ポエニ戦争（紀元前 264~241）、ハンニバルがイタリアに進軍した第二次ポエニ戦争（紀元前 218~201）そして第三次ポエニ戦争（紀元前 149~146）では3年間の籠城戦の後、陥落する。このときに活躍したのがアルキメデスの考案した新兵器である。一度は住む人もいなくなったが紀元前 29 年にはローマの都市計画にそった殖民市として復興し、再び黄金時代を迎える。7世紀のアラブの侵入後は再び廃墟と化した。近年はチュニスの郊外住宅地として開発が進み、また観光地としても変貌をとげている。

海辺に面し、古代カルタゴの港（Ports Punique）がある。今ではただの池のようにしか見えないが、古代カルタゴの繁栄を支えた南側の長方形の商業港とそれに繋がる北側の円形の軍港の跡である。商業港は縦 500m、横 300m の広さで、周囲には倉庫街とボン岬半島先端のエルハワリア（El Haouaria）から切り出された砂岩の岸壁が巡らされていた。軍港は直径 300m で 220 隻の船を係留することができ、ロープなどで船を陸に引き上げる設備もあった。今では海岸線が変わり直接に海と繋がっているが、当時は商業港を通して海へ出るようになっていた。商業港への出口は幅 20m の水路で繋がっており、いざというときには鉄の鎖で封鎖できる仕組みになっていた。忘れられていたこの港の発掘調査が行なわれたのは 1970 年代になってからで、今では陸続きになっている軍港中央の小島ではローマ神殿や船を引き上げる船架跡などが見られる。入口近くには小資料館があり、港の復元模型や発掘の様子が展示されている。

古代の商業港と軍港に挟まれた海沿いの一角に海洋博物館がつくられている。ここにはチュニジアの魚や漁業に関するものが展示されている。当日は 16 時からの開館ということで内部の見学はできなかった。

古代カルタゴの港

Ports Punique

入場無料

訪 問：9月7日（土）

海洋博物館

Musée Oceanographic

開館時間：9時~12時、16時~19時（火~土）

9時~19時（日）

休 館 日：月曜日

料 金：1.00 ディナール

訪 問：9月7日（土）



写真 25 カルタゴの軍港跡



写真 26 カルタゴの軍港の船架跡



写真 27 カルタゴ海洋博物館

## (2) チュニス

チュニスの中心街から5kmほど西に行った3月20日通りにある。この博物館はチュニアのルーブルといわれ、モザイクタイルのコレクションでは世界一を誇るといわれている。「ネプチューンの勝利」、「ヘラクレスの苦難」、「バックスの勝利」がバルドー博物館の最高傑作といわれているが、そのほかにも多くの船を描いたモザイクやマハディア沖で紀元前81年に難破したギリシア船から発見された品、などが展示されている。この建物はもとはベイとよばれるオスマン帝国支配下のチュニアの統治者の宮殿だった。博物館としては1882年にアラウィ博物館の名で創設され、1956年にフランスからの独立と同時に現在の名称になった。博物館の隣に建つのは国民議会で、その入口には制服姿の衛兵が立っている。

## バルドー博物館

## Musée National du Bardo

開館時間：9時～17時（4月1日～9月15日）

9時30分～16時30分（9月16日～3月31日）

休館日：月曜日

料 金：4.200 ディナール、カメラ持込 1.000 ディナール

訪 問：9月7日（土）



写真 28 バルドー博物館

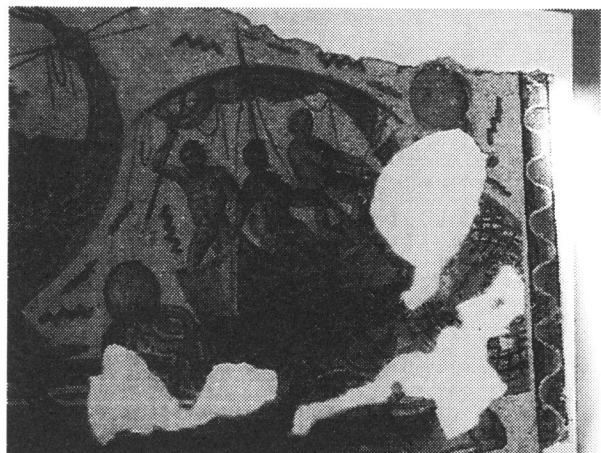


写真 29 バルドー博物館の船のモザイク

## (3) ケルクワン

ボン岬半島の北東端のボン岬とケリビアの間に位置し、地中海に面した古代ポエニ時代の都市遺跡である。ポエニ人によって紀元前6世紀頃に築かれ、カルタゴが滅亡した紀元前2世紀にローマ軍によって破壊された。ローマはこの都市を再建しなかったため幸運にも世界で珍しいフェニキア遺跡がそのまま残されることになった。この遺跡が発見されたのは1952年で、その後この近くから住民の墓であるネクロポリスも発見され、貴重な副葬品が出土した。ポエニ時代のこの都市の名前はわかっておらず、現在の名前は近くを流れるケルクワン川からとられた。

## ケルクワンの遺跡

開館：9時～18時（4月1日～9月15日）  
 9時～16時（9月16日～3月31日）  
 休館日：無休  
 入場料：大人 2.100 ディナール  
 カメラ 1.000 ディナール  
 訪問：9月7日（土）



写真 30 ケルクワンの遺跡

## 11. マルタ

## (1) タルシーン (マルタ)

タルシーン神殿 (Tarxien Neolithic Temples) は紀元前 3000～2500 年に建設され、クローバーの葉状に半円を重ねた、3つの神殿が続いている。1914年～1919年に発掘されるまで地中に埋もれていたために保存状態はよい。各種の発掘品のオリジナルはバレッタの考古学博物館にある。このなかの一つの神殿の入口の側壁に船を描いた石板がある。船の絵は消えかかっているが石が脆いために考古学博物館に運ぶことができないそうだ。バレッタの考古学博物館の Charles Borj 氏はこの石の保存に関する援助を希望していた。

石に刻まれた渦巻き状の文様は至る所にみられるが波を表しているといわれている。

## タルシーン神殿

開館時間：7時45分～14時（6月16日～9月30日）  
 8時15分～17時（10月1日～6月15日、月～土）  
 8時15分～16時15分（10月1日～6月15日、日）

料金：大人 1 マルタリラ  
 訪問：9月8日（日）



写真 31 船が描かれた石板



写真 32 石板の説明図

## (2) バレッタ

聖エルモ要塞 (Fort St. Elmo) はシベラス半島の先端に位置する砦で、15世紀から軍事戦略上の重要防衛拠点だったが、実際の建設は1552年で、守護聖人聖エルモの小さな礼拝堂があった場所に建設されたのでこの名前が付いた。

聖ヨハネ騎士団はオスマントルコ帝国の侵攻を防ぐために、ピエトロバードの設計によりこの砦を6ヶ月で建設した。

## 聖エルモ要塞

## Fort St. Elmo

開館：13時～17時 (土曜日)、

9時～17時 (日曜日)

料金：大人 1.00 マルタリラ

訪問：9月8日(日)

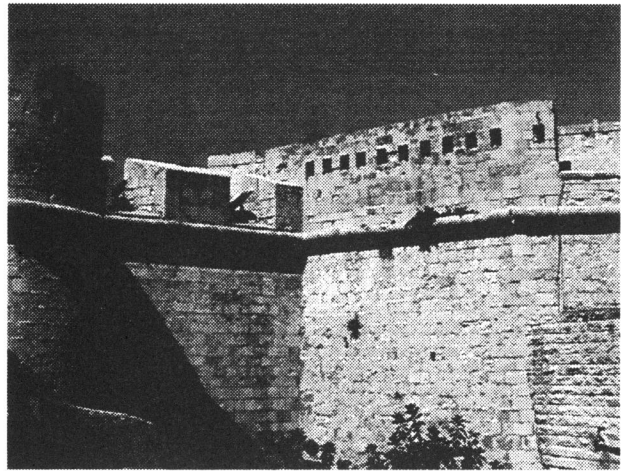


写真 33 聖エルモ要塞

## (3) ハガールキム神殿とムナイドラ神殿

ハガールキム神殿は紀元前2800年～2400年に建てられた神殿でその隣にあるムナイドラ神殿は紀元前3000年～2400年に建てられた。

ムナイドラ神殿は半円を描いた3つの神殿が並んでいる。入口の右側の小さな神殿はマルタ神殿の中でもより古く、規模は小さい。

## ハガールキム神殿とムナイドラ神殿

## Hagar Qim &amp; Mnajdra Temples

開館時間：7時45分～14時 (6月16日～9月)、

8時15分～17時 (10月～6月15日、月～土)、

8時15分～16時15分 (10月～6月15日、日)

料金：大人 1 マルタリラ

訪問：9月8日(日)



写真 34 ムナイドラ神殿

## (4) ビットリオーザ

## マルタ海事博物館

開館時間：7時45分～14時 (6月16日～9月30日)、8時15分～17時 (10月1日～6月15日)、

8時15分～16時15分 (土曜日)



休館日：休日

料 金：大人 1.00 マルタリラ

訪 問：9月10日（火）

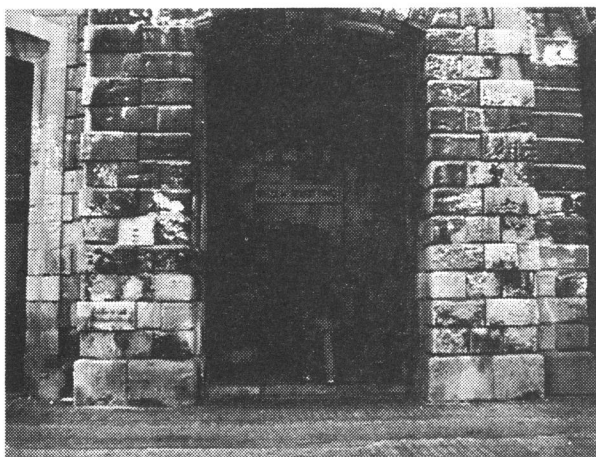


写真 35 海事博物館

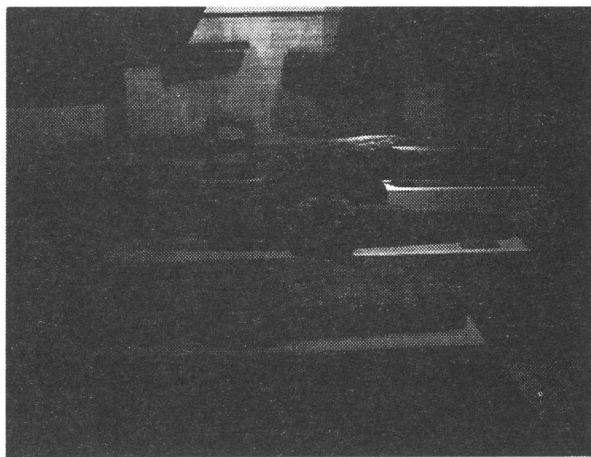


写真 36 海事博物館 古代のアンカー

## 12. シチリア島（イタリア）

### （1）シラクーサ

古代地中海の大都市であったシラクーサの町はシクーリ人の前に、フェニキア人、コリントイ人たちが住み、文化が混在する都市であった。テメニテの丘には紀元前3世紀、ヒエロン2世時代のシチリア島では一番大きいギリシア劇場、旧市街のオルティジア島内には紀元前7世紀末頃に建てられたアポロ神殿跡がある。

ギリシア時代の海軍工廠跡がエウリピーデ広場の近くに鉄道にそって残されている。

ギリシア時代のアルセナーレ跡

訪 問：9月10日（火）



写真 37 ギリシア時代の海軍工廠跡



写真 38 ギリシア時代の海軍工廠跡

### （2）アグリジェント

アグリジェントは海から数キロメートルにわたりせり上がる斜面に古代ギリシアの神殿が集まり、斜面の頂点に

は中世から近代の都市が続いている。神殿の谷 (Valle dei Templi) と呼ばれる一带には古代の神殿が並んでいる。その中の一つ、広々とした海を背景に建つコンコルディア神殿はドーリア式で、紀元前 460 年～440 年頃に奉献されたものと推測されている。

#### 神殿の谷 (Valle dei Templi)

開館時間：8 時 30 分～日没 1 時間前

休館日：無休

料 金：大人 2.07 ユーロ

訪 問：9 月 11 日 (水曜日)



写真 39 アグリジェントのコンコルディア神殿

#### (3) セリヌンテ

セリヌンテは紀元前 650 年頃に東海岸のメガラから来たギリシア人によって神殿が築かれ、隆盛を極めたが、紀元前 409 年のカルタゴの来襲によって破壊された。その後、地震のために瓦礫の山となってしまった。考古学公園は東と西にそれぞれ、東神殿群 (Templi Orientali)、アクロポリ (Acropoli) に分かれている。東神殿群では紀元前 480 年頃のドーリア式の神殿、アクロポリでは一つの神殿の列柱が復元されている。またアクロポリ北部にはカルタゴ時代の住居跡もある。

#### セリヌンテの遺跡群

開 館：9 時～18 時 (6 月～10 月)、

9 時～17 時 (11、12 月)、

9 時～16 時 (1 月～5 月)

入 場 料：大人 4.13 ユーロ

訪 問：9 月 11 日 (水曜日)

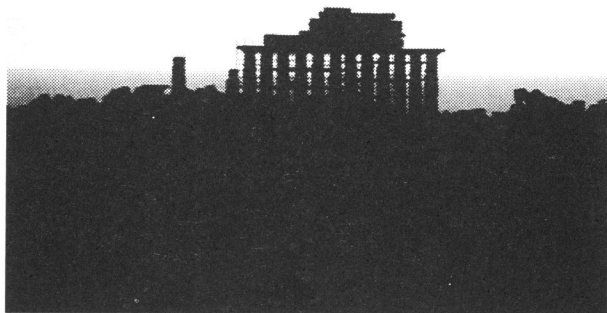


写真 40 セリヌンテの東神殿群からアクロポリを望む

#### (4) マルサーラ

マルサーラ考古学博物館での一番の見ものは全長 35m のフェニキア船の貴重な残骸 Relitto di Nave Punica である。第一次ポエニ戦争の終盤にローマ軍に破れて沈没したものと推測されている。木製のため多くの部分が欠損しているが、船首船底部の、ステム、外板、フロア、フレームなどを見ることができる。

マルサーラ考古学博物館

Museo Archeologico Marsala

住 所：Via Lungomare Boeo

電 話：0923-952535

開館時間：9時～13時30分（水、金、土、日は16時～19時も）

料 金：大人2.07ユーロ

展 示：フェニキア時代の船の断片

写真撮影：禁止

訪 問：9月12日(木曜日)

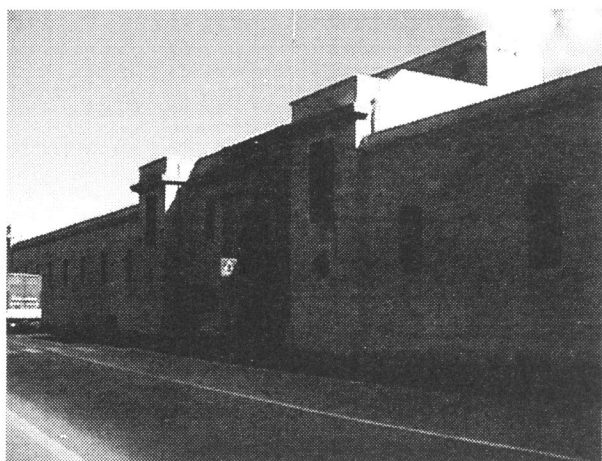


写真 41 マルサーラ考古学博物館

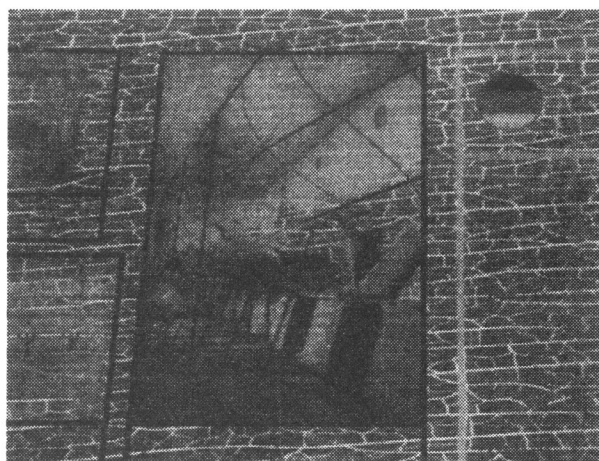


写真 42 マルサーラ考古学博物館（フェニキア時代の船）

#### (5) トラーパニ

トラーパニの町は現在、マグロの遠洋漁業の基地にもなっている。リニーの塔は町の北に突き出た岬の先端に1671年に建設された。現在は海洋博物館と、先史時代博物館になっている。

海洋博物館

Museo del Mare

住 所：Torre di Ligny

電 話：0923-22300

現在修復のため休館

訪 問：9月12日（木）

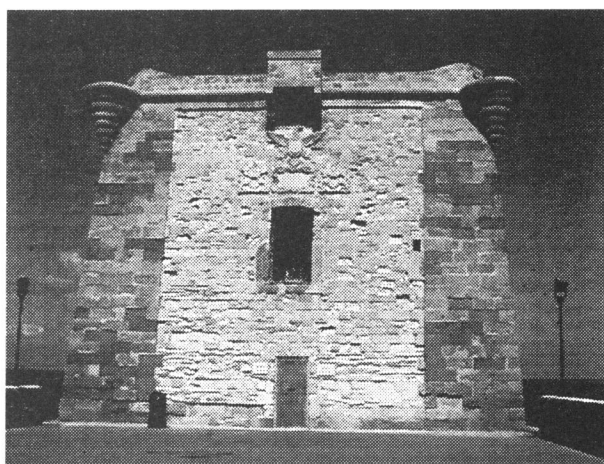


写真 43 トラーパニの海洋博物館（リニーの塔）



### 13. アマルフィ（イタリア）

アマルフィ、ベネツィア、ジェノバ、ピサを4大海運共和国と呼んでいるが、そのうちの最古の町であるアマルフィは10～11世紀に繁栄した。

当時はチェスナツツの木材をエジプトに輸出するなど、アマルフィ、エジプト、レバノンで3角貿易を行っていた。しかし、ピサの侵入や地震と津波による砂浜の浸食などにより、広範囲の土地が海中に没した。現在はイタリア屈指のリゾート地として人気を集めている。

海岸付近には海軍工廠跡の一部が残っている。その入口には「ANTICHI ARSENALI DELLA REPUBBLICA AMALFITANA MON. XI SEC.」と書かれている。

アマルフィアルセナーレ跡

訪 問：9月13日（金）



写真44 アマルフィ海岸

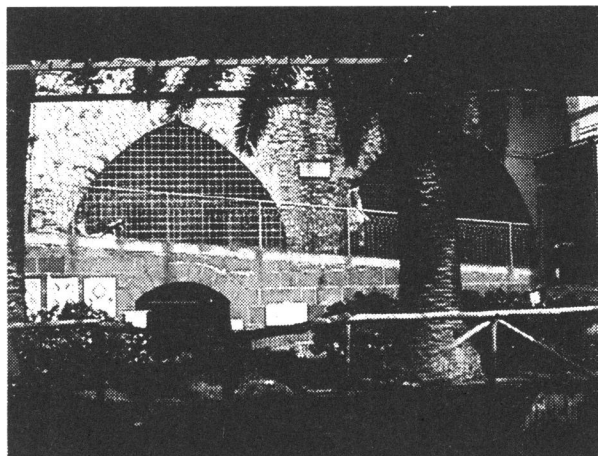


写真45 アマルフィのアルセナーレ跡

### 14. ベネツィア（イタリア）

6世紀頃に本土の住民が異民族の侵略を逃れ、ラグーナに住み始めたのがベネツィアの起こりとされている。8世紀頃は現在のリド島のマラモッコ地区が居住地で、9世紀には今のリアルト橋あたりにその中心が移った。当時はビザンチン帝国の支配下にあったが、統治者「ドージェ」が実質上の自治を確立していた。828年に聖マルコの遺体がアレキサンドリアから運ばれ、その廟としてサンマルコ寺院が建造された。ベネツィアの象徴である有翼の獅子の紋章もこのとき生まれた。11世紀末に十字軍の遠征が始まるとベネツィアは地中海の港に商館を開き、勢力を拡大する。1204年には十字軍に乗じてコンスタンティノープルを陥落させ、地中海の大部分がベネツィア共和国の支配下に入った。その後、1世紀半にわたり、ジェノバとの攻防が続くが、14世紀末の平和条約によりベネツィアは東方貿易を独占した。この取引によって莫大な富を手に入れたベネツィアは15世紀に全盛期を迎え、贅を尽くした宮殿やルネッサンス文化が開花した。17世紀以降は衰退をたどり、ペストの流行やトルコとの戦争に国力が低下し、1797年にはナポレオンの支配下に入る。19世紀にはオーストリアにより統治され、1866年にはイタリアに併合された。

ベネツィア海軍歴史博物館

Museo Storico Navale di Venezia

開館：8時45分～13時30分（月～金）、8時45分～13時（土）（入館は終了30分前まで）

休館日：日曜日

料金：大人1.55ユーロ

写真撮影：ノーフラッシュにて可

訪問：9月14日（土）

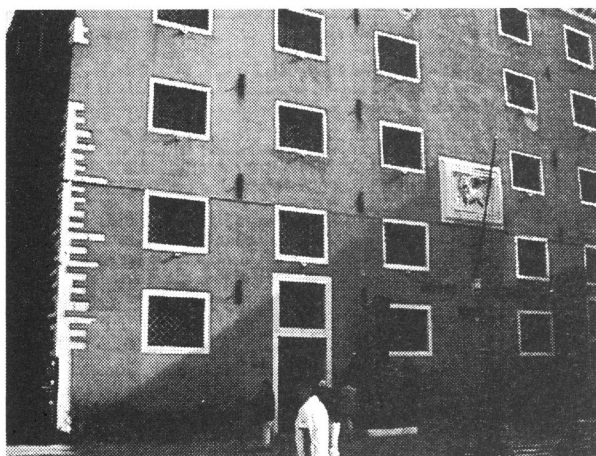


写真46 ベネツィア海軍歴史博物館

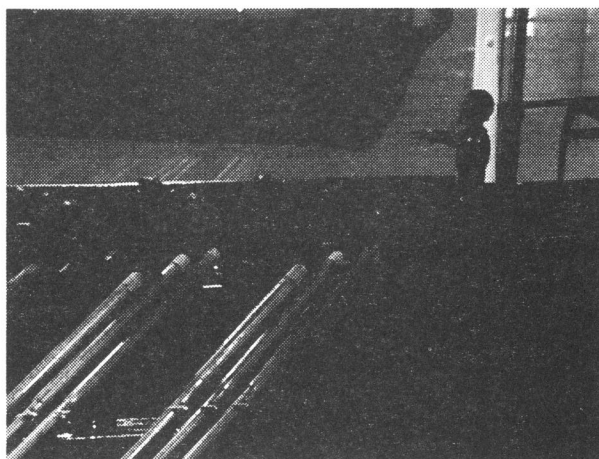


写真47 Model of a 16th Century Venetian Trirem  
(ベネツィア海軍歴史博物館)

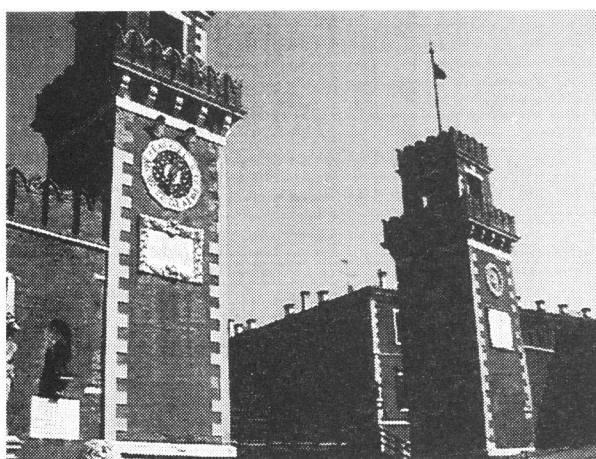


写真48 ベネツィア海軍工廠入口

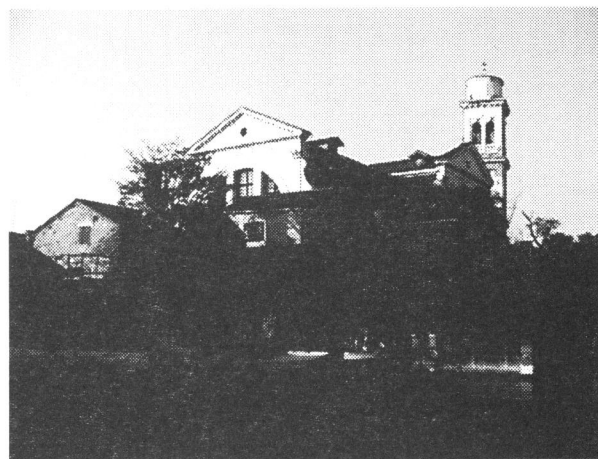


写真49 ゴンドラ修理工場（ベネツィア）

## 15. ジェノバ(イタリア)

ジェノバは古代ローマによって港湾都市の基礎が築かれ、11世紀末に始まった十字軍の遠征を機に、海洋国家として発展した。その後、近隣のピサ共和国、アドリア海のベネツィア共和国と地中海の覇権をめぐる紛争が続く。13世紀にはピサを破り、ティレニア海を手中に収めるが、14世紀末にはベネツィアに敗退し、次第に勢力を弱めた。現在は海運国の伝統を守り、イタリア最大の港湾都市として栄えている。

コロンブスの家はコロンブスが幼年期を過ごしたと伝えられる2階建ての家で18世紀に再建された。ダンテ広場にある。

コロンブスの家

Casa di Colombo

開 館：9時～12時、14時～19時

料 金：大人1.55ユーロ

訪 問：9月16日(月曜日)



写真 50 コロンブスの家

## あとがき

本報告は 2002 年度文部科学省科学研究費基盤研究C「船に見る地中海文明史 —ギリシアを中心に古代から現代まで—」(14510642 研究代表者 丹羽隆子教授)による調査に共同研究者の一人として参加して得られた海事関係資料を行程順にまとめたものである。ここに示す解説については表層的な記述しかなされていない個所が多いが、今後は現地で入手した資料や記述したメモなどをもとにさらに詳細な分析を行ないたい。

ここに示した幾つかの古代の遺跡や神殿跡などを訪問し、その多くが海岸付近に造られているのをみて、海や港が古代において都市の発展と深く関わっていたことを実感することができた。このような事項についても今後検討していきたい。